

## 南アジア地域研究のための文献案内

### <学生のみなさんへ>

ここで紹介するのは、ウルドゥー語・ヒンディー語・ベンガル語が用いられている南アジア地域の研究に関わる基本的な文献です。これら3つの言語が話されている地域の歴史や社会は、相互に深い関わりを持つだけでなく、ペルシア語やアラビア語が話されている地域や中央アジア地域とも密接に関わってきましたから、それらの地域の文献案内も参照するよう心がけてください。3専攻語の学生は、それぞれの専攻語の文献案内に掲げられた図書を等しく参照することが求められます。

(2013年9月 萬宮健策、藤井毅、谷口晋吉)

### 【ウルドゥー語専攻】

ここで紹介するのは、南アジア地域のうち、ウルドゥー語が主に用いられているイスラーム教徒多住地域(パキスタンや北インド)を主として扱っている文献のみです。ウルドゥー語が話されている地域の歴史や社会は、ヒンディー語やベンガル語地域、またペルシア語、アラビア語地域および中央アジア地域とも深い関わりがありますから、それらの地域の文献案内も、必要に応じて参照するよう心がけてください。特に、ベンガル語専攻の参考文献は、東西パキスタン時代を知ることにつながりますから、必ず参照して下さい。

文献に◎がついているものは、ヒンディー語地域、ベンガル語地域の地域研究と共通の文献です。

### 事典・工具類

◎辛島昇ほか(監修) 2012. 新版 南アジアを知る事典 平凡社

南アジアに関する基本情報を得るための必携書の1つ。専門家により、非常に多くの項目が解説されている。大きく改訂されているので、必ず新版を参照すること。

◎大塚和夫 著 2002. 岩波イスラーム辞典 岩波書店

「南アジアを知る事典」とともに、必携書の1つ。

小杉泰、林佳世子、東長靖 編 2008. イスラーム世界研究マニュアル 名古屋大学出版会

南アジアのイスラームに関する情報も含まれている。イスラーム世界を学ぶための道具、資料がどこに行けばあるか、どう探せばいいか、を知ることができる。

佐藤次高(監修) 2002. 新イスラーム事典 平凡社

上記イスラーム辞典(岩波書店)とともに、必携書。約1100項目に及ぶ入門事典。

平凡社編集部 2000. [最新 地図で知る東南・南アジア](#) 平凡社

南アジア各国の地図(主要都市の地図も含む)および基本統計が掲載されている。

## 概説書

◎広瀬崇子、山根聡、小田尚也 編著 2003. [パキスタンを知るための60章](#) 明石書店

明石書店のシリーズ。ほかに、◎[現代インドを知るための60章](#)(2007)、◎[バングラデシュを知るための60章\(第2版\)](#)(2009)などがある。

◎[現代南アジア 全6巻](#) 2002. 東京大学出版会

南アジア地域に関するさまざまな分野の研究動向を知るのに適したシリーズ。

山根聡 著 2011. [4億の少数派:南アジアのイスラーム](#) 山川出版社

中東地域よりも多くのムスリムを抱える南アジアを中心に扱った概説書。

黒崎卓、山根聡、子島進 編 2004. [現代パキスタン分析](#) 岩波書店

インドの影に隠れがちだったパキスタンを扱った、さまざまな分野の専門家による論文集。

小西正捷 編 1987. [もっと知りたいパキスタン](#) 弘文堂

弘文堂からも、[もっと知りたいインド I および II](#)、[もっと知りたいバングラデシュ](#)など、国別のシリーズが刊行されているが、発行年が古い。

## 歴史

◎山崎元一、小西正捷 編 2007. [南アジア史\(1\)先史・古代](#) (世界歴史大系) 山川出版社

◎小谷汪之 編 2007. [南アジア史\(2\)中世・近世](#) (世界歴史大系) 山川出版社

◎辛島昇 編 2007. [南アジア史\(3\)南インド](#) (世界歴史大系) 山川出版社

高校までの世界史を復習し、南アジアの歴史をより詳しく学ぶための必読書。

アーイシャ・ジャラル 著 井上あえか(訳) 1999. [パキスタン独立](#) 勁草書房

英語の原書は、Jalal, Ayesha. 1994. *The sole spokesman: Jinnah, the Muslim League and the demand for Pakistan*. Cambridge: Cambridge University Press.

★図書館では [ハードカバー版\(1985年刊\)](#)を所蔵

パキスタンの独立が現実となった背景を、インド総督、ネルー(国民会議派)、ジンナー(ムスリム連盟)の駆け引きをもとに再現している。

中村平治 著 1993(第2版。初版は1977)。南アジア現代史Ⅰ インド 山川出版社  
第2版では、本文で1980年代が略述され、および巻末の年表部分が1992年まで追加されている。

加賀谷寛、濱口恒夫 著 1977。南アジア現代史Ⅱ パキスタン・バングラデシュ 山川出版社  
インド、パキスタン分離独立前後から、バングラデシュ独立までを扱った必読書の1つ。ただし、扱われている時代は、1970年代前半(バングラデシュ独立)までであることに留意。

ドミニク・ラピエール、ラリー・コリンズ 著 杉辺利英(訳) 1981。今夜、自由を(上)(下) ハヤカワ文庫 NF74

★図書館では単行本(1977年早川書房刊)を所蔵

英語の原書は、Lapierre, Dominique and Larry Collins. 2011 (1<sup>st</sup>. 1975), *Freedom at midnight*. New Delhi: Vikas Publishing House Pvt. Ltd.

★図書館では1978年版を所蔵

日本語訳は、単行本(1977年早川書房刊)ともに、入手困難かもしれない。

## 社会

◎(叢書)カースト制度と被差別民(全5巻) 1994-95。明石書店

カースト制度に関する研究動向、歴史、現状を知るための研究書(論文集)。

フォージア・サイド 著 太田まさこ(監訳) 2010。タブー:パキスタンの買春街で生きる女性たち コモンズ

英語の原書は、Saeed, Fouzia. 2002. *Taboo: The hidden culture of a red light area*. Karachi: Oxford University Press.

著者はパキスタンの社会活動家。ラホールのヒーラー・マンディー地区に焦点を当てた文化人類学的な調査に基づいての記述が優れている。

サーラ・スレーリ 著 大島かおり(訳) 1992。肉のない日:あるパキスタンの物語 みすず書房

英語の原書は、Sureli, Sara. 1989. *Meatless days*. University of Chicago Press.

著者の自伝的記録。ラホールを舞台に、パキスタン独立前後の歴史を、自分の半生に重ねて描いている。父親はインドとの分離独立を支持したジャーナリスト、母はウェールズ出身のイギリス人。

中村正口 1990。貧者の核爆弾 文藝春秋

基本的に小説(フィクション)だが、登場人物の多くは現実に存在し、パキスタンで1988年8月に起きたズィヤール・ハク大統領(当時)が死亡した事件に関する記述は、臨場感がある。

## 【ヒンディー語専攻】 (=【ウルドゥー語専攻】+@)

### ● 事典・工具類

辛島昇他編、2012. 『[新版 南アジアを知る事典](#)』、平凡社。

南アジアに関する基本情報を得るための必携書の1つ。専門家により、非常に多くの項目が解説されている。大きく改訂されているので、必ず新版を参照すること。

大塚和夫他編、2002. 『[岩波イスラーム辞典](#)』、岩波書店。

「南アジアを知る事典」とともに、必携書の1つ。

小杉泰、林佳世子、東長靖編、2008. 『[イスラーム世界研究マニュアル](#)』、名古屋大学出版会

南アジアのイスラームに関する情報も含まれている。イスラーム世界を学ぶための道具、資料がどこに行けばあるか、どう探せばいいか、を知ることができる。

佐藤次高監修、2002. 『[新イスラーム事典](#)』、平凡社。

上記イスラーム辞典(岩波書店)とともに、必携書。約 1100 項目に及ぶ入門事典。

平凡社編集部、2000. 『[最新 地図で知る東南・南アジア](#)』、平凡社。

南アジア各国の地図(主要都市の地図も含む)および基本統計が掲載されている。

松本脩作編、2006. 『[インド書誌:明治初期～2000 年刊行邦文単行書](#)』、東京外国語大学 21 世紀COE「史資料ハブ地域文化研究拠点」。

足立享祐編、2006. 『[明治・大正・昭和期 南アジア研究雑誌記事索引:日印協會々報、印度甲谷陀日本商品館報、日印経済協會會報、新亜細亜、総合インド月報](#)』、東京外国語大学 21 世紀COE「史資料ハブ地域文化研究拠点」。

### ● 概説書

広瀬崇子、山根聡、小田尚也編著、2003. 『[パキスタンを知るための 60 章](#)』、明石書店。

広瀬崇子他編著、2007. 『[現代インドを知るための 60 章](#)』、明石書店。

大橋正明、村山真弓編著、2009. 『[バングラデシュを知るための 60 章 \(第2版\)](#)』、明石書店。

長崎暢子他編、2002-3. 『[現代南アジア 全6巻](#)』、東京大学出版会。

南アジア地域に関するさまざまな分野の研究動向を知るのに適したシリーズ。

山根聡著、2011. 『[4億の少数派:南アジアのイスラーム](#)』、山川出版社。

中東地域よりも多くのムスリムを抱える南アジアを中心に扱った概説書。

黒崎卓、山根聡、子島進編、2004. 『[現代パキスタン分析](#)』、岩波書店。

インドの影に隠れがちだったパキスタンを扱った、さまざまな分野の専門家による論文集。

小西正捷編、1987. 『[もっと知りたいパキスタン](#)』、弘文堂。

佐藤宏、内藤雅雄、柳澤悠編、1989. 『[もっと知りたいインド\(I, II\)](#)』、弘文堂。

白田雅之、佐藤宏、谷口 晋吉編、1993. 『[もっと知りたいバングラデシュ](#)』、弘文堂。

## ● 歴史

山崎元一、小西正捷編、2007. 『南アジア史(1)先史・古代 (世界歴史大系)』、山川出版社。

小谷汪之編、2007. 『南アジア史(2)中世・近世 (世界歴史大系)』、山川出版社。

辛島昇編、2007. 『南アジア史(3)南インド (世界歴史大系)』、山川出版社。

高校までの世界史を復習し、南アジアの歴史をより詳しく学ぶための必読書。

内藤雅雄、中村平治編、2006. 『南アジアの歴史:複合的社会の歴史と文化』、有斐閣。

アーイシャ・ジャラル著、井上あえか訳、1999. 『パキスタン独立』、勁草書房。

英語の原書は、Jalal, Ayesha. 1994. *The sole spokesman: Jinnah, the Muslim League and the demand for Pakistan*. Cambridge: Cambridge University Press.

★図書館では ハードカバー版(1985年刊)を所蔵

パキスタンの独立が現実となった背景を、インド総督、ネルー(国民会議派)、ジンナー(ムスリム連盟)の駆け引きをもとに再現している。

中村平治、1993(第2版。初版は1977). 『南アジア現代史 I インド』、山川出版社。

第2版では、本文で1980年代が略述され、および巻末の年表部分が1992年まで追加されている。

加賀谷寛、濱口恒夫、1977. 『南アジア現代史II パキスタン・バングラデシュ』、山川出版社。

インド、パキスタン分離独立前後から、バングラデシュ独立までを扱った必読書の1つ。ただし、扱われている時代は、1970年代前半(バングラデシュ独立)までであることに留意。

ドミニク・ラピエール、ラリー・コリンズ著、杉辺利英訳、1981. 『今夜、自由を(上)(下)』、ハヤカワ文庫NF74。

★図書館では 単行本(1977年早川書房刊)を所蔵

英語の原書は、Lapierre, Dominique and Larry Collins. 2011 (1<sup>st</sup>. 1975), *Freedom at midnight*. New Delhi: Vikas Publishing House Pvt. Ltd.

★図書館では 1978年版を所蔵

日本語訳は、単行本(1977年早川書房刊)ともに、入手困難かもしれない。

ウルワシー・ブターリア著、藤岡恵美子訳、2002. 『沈黙の向こう側:インド・パキスタンの分離独立と引き裂かれた人々の声』、明石書店。

英語の原著は、Butalia, Urvashi, 2000. *The other side of silence: voices from the partition of India*. Durham: Duke University Press/London: C. Hurst.

## ● 社会

小谷汪之他編、1994-95. 『叢書・カースト制度と被差別民(全5巻)』、明石書店。

カースト制度に関する研究動向、歴史、現状を知るための研究書(論文集)。

小谷汪之、1996. 『不可触民とカースト制度の歴史』、明石書店。

藤井毅、2008. 『歴史のなかのカースト(第2版)』、岩波書店。ただし、現在品切れ。

★図書館では 初版(2003年刊) を所蔵

藤井毅、2007. 『インド社会とカースト』、山川出版社

フォージア・サイード著、太田まさこ監訳、2010. 『タブー:パキスタンの買春街で生きる女性たち』、コモンズ。

英語の原書は、Saeed, Fouzia. 2002. *Taboo: The hidden culture of a red light area*. Karachi: Oxford University Press.

著者はパキスタンの社会活動家。ラホールのヒーラー・マンディー地区に焦点を当てた文化人類学的な調査に基づいての記述が優れている。

サーラ・スレーリ著、大島かおり訳、1992. 『肉のない日:あるパキスタンの物語』、みすず書房。

英語の原書は、Sureli, Sara. 1989. *Meatless days*. University of Chicago Press.

著者の自伝的記録。ラホールを舞台に、パキスタン独立前後の歴史を、自分の半生に重ねて描いている。父親はインドとの分離独立を支持したジャーナリスト、母はウェールズ出身のイギリス人。

## 【ベンガル語専攻】

### <はじめに>

ベンガルは南アジア世界の東端に位置し、現在はインドの西ベンガル州とバングラデシュという2つの国に分断されているが、歴史的には同一の言語・文化圏をなしてきた。ベンガルの歴史・宗教・文化・社会・慣習には、他の南アジア諸地域と共通する部分が多いが、他方で、ベンガル地域に固有な特徴も数多く存在する。我が国の研究者達もベンガルの過去と現在をよりよく理解する為に、営々と、文献調査、現地調査を積み重ねて来た。以下においては、比較的最近に日本語で刊行された単行本に限って、その主なものを示したい。なお、南アジアに関する共通基本文献(ウルドゥー語専攻の部分で◎が付けられたもの)は、ベンガル研究を志す者にとっても基本となることは言を俟たない。

### <ベンガルの通史>

ベンガル史の様々な個別的テーマを扱った日本語で書かれた論文はすでに相当数に達しているが、古代から現代までのベンガルの歴史を俯瞰する日本語で書かれたオリジナルな通史はまだない。だが、イギリス植民地支配期から印パ分離独立を経てバングラデシュの独立に至る時期の歴史的概観は加賀谷寛・浜口恒夫共著『世界現代史 10 南アジア現代史II』(山川出版社、1977)や、臼田雅之・佐藤宏・谷口晋吉編著『もっと知りたいバングラデシュ』(弘文堂、1993)に与えられており、より詳しい専門的研究としては、佐藤宏編著『バングラデシュ:低開発の政治構造』(アジア経済研究所、研究双書 393、1990)がある。

### <ベンガルの社会・文化・宗教・文学>

小西正捷著『ベンガル歴史風土記』(法政大学出版局、1986)は、ベンガルの民衆文化の基本的特徴をはるか古代にまで遡って探ったユニークな研究であり、外川昌彦著『ヒンドゥー女神と村落社会 インド・ベンガル地方の宗教民俗誌』(風響社、2003)、同『宗教に抗する聖者』(世界思想社、2009)は、ベンガル農村社会におけるヒンドゥーおよびムスリムの宗教的諸相に関して、著者のフィールド・ワークの成果を踏まえて、幅広く論じている。高田峰夫著『バングラデシュ民衆社会のムスリム意識の変動』(明石書店、2006)は、バングラデシュ各地を歩き回り、自らの観察に基づいて、民衆の中のムスリム意識の変動を考察する。臼田雅之著『近代ベンガルにおけるナショナリズムと聖性』(東海大学文学部叢書)(東海大学出版会、2013年)は、著者の40年以上のベンガル研究の集大成として、植民地近代における東ベンガルのある地域社会における政治意識と宗教意識の関連を問い、竹内啓二著『近代インド思想の源流 ラムモホン・ライの宗教・社会改革』(新評論、1991)は、ベンガル社会の近代化に画期的な足跡を残した社会改革者ラムモホン・ライの活動の全容を明らかにし、丹羽京子著『タゴール』(清水書院、2011)は、近代ベンガルの文化的巨人タゴールを美化することなく冷静に見つめる。1970年代以降、ベンガル社会・文化に惹かれた日本の若者達の献身的努力によって『コッラニ』(1976~2006)、『遡河』(1988~2011)という2つの雑誌が長期にわたって刊行され、数多くのベンガル語の詩や小説の翻訳、興味深いエッセイが発表されていることも特筆に値する。

#### <ベンガルの社会開発・経済開発>

石上悦朗／佐藤隆広編著『現代インド・南アジア経済論』(ミネルヴァ書房、2011)は、近年、急速な成長の道を進み出したインド、バングラデシュなど南アジア諸国の最新の経済状況を分かり易く叙述し、南谷猛、浅井宏、松尾範久共著『バングラデシュ経済がわかる本』(徳間書店、2011)は、ビジネスマンの目からバングラデシュにおける最新の企業活動を説明する。

南アジアは、急速な経済発展にも関わらず、依然として巨大な貧困問題を解決できずに苦悶している。海田能宏編著『バングラデシュ農村開発実践研究』(コモンズ、2003)は1986年以降バングラデシュの8カ村において持続的に農村開発の支援活動を行ってきた京都大学の研究グループの報告書であり、このグループのユニークな活動の全容を知ることが出来る。藤田幸一著『バングラデシュ農村開発のなかの階層変動 貧困削減のための基礎研究』(京都大学学術出版会2005)も同じくバングラデシュ農村における農業近代化と灌漑水市場の出現が農村経済に与えた影響を経済学的に追究し、向井史郎著『バングラデシュの発展と地域開発』(明石書店、2003)は、バングラデシュにおける開発行政を現地調査にもとづき掘り下げて考察している。ムハマド・ユヌス著猪熊弘子訳『ムハマド・ユヌス自伝』(早川書房、1998)、ムハマド・ユヌス著猪熊弘子訳『貧困のない世界を創る』(早川書房、2008)、坪井ひろみ『グラミン銀行を知っていますか』(東洋経済新報社、2006)、佐藤彰男、IU.チョドリ、坂本真司、鳩貝耕一『ヴィレッジフォン』(御茶ノ水書房、2010)は、ノーベル賞を受賞したムハマド・ユヌスが創設したマイクロ・ファイナンス(グラミン銀行)事業とその発展形態を分かり易く述べている。西川麦子著『バングラデシュ/生存と関係のフィールドワーク』(平凡社、2001)、金基淑著『アザーンとホラ貝ーインド・ベンガル地方の絵語り師の宗教と生

『活戦略』(明石書店、2000)は、前者はバングラデシュ農村、後者は西ベンガル州農村における底辺の人々の生存戦略をフィールド・ワークに基づいて考察している。三宅博之『開発途上国の都市環境 バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』(明石書店、2008)は、メガ都市ダカの下水、屎尿、廃棄物処理を巡る諸問題を、それを担う最底辺都市労働者層の動向を含めて、丁寧に分析した好著である。